



気候変動リスク情報創生プログラムの まとめ

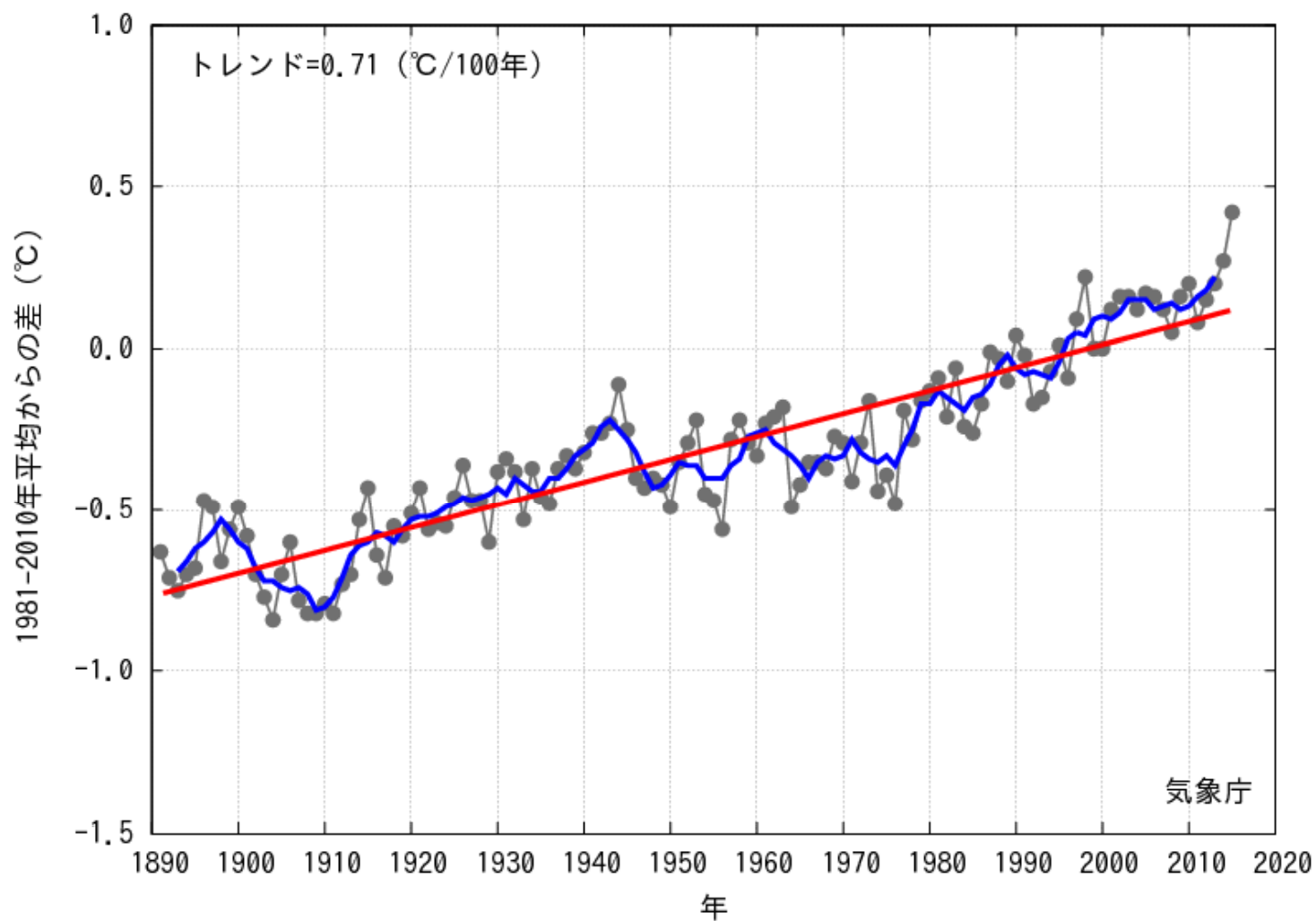
住 明正

気候変動リスク情報創生プログラム
プログラム・ディレクター
国立環境研究所 理事長

地球温暖化問題は新しい段階に入った！

- 温暖化の進行（ハイエータスの終了）
- 新たな国際枠組み — パリ協定
- 適応の再定義
 - (今までの誤解) 緩和は積極的な取り組みであるが、適応は後向きな取り組み
 - 適応の推進こそが、将来に対する積極的な取り組み
 - 緩和は個別削減に傾きやすい、適応は社会システムの — 緩和と適応のBest Mix

世界の年平均気温偏差



北半球の年平均気温偏差

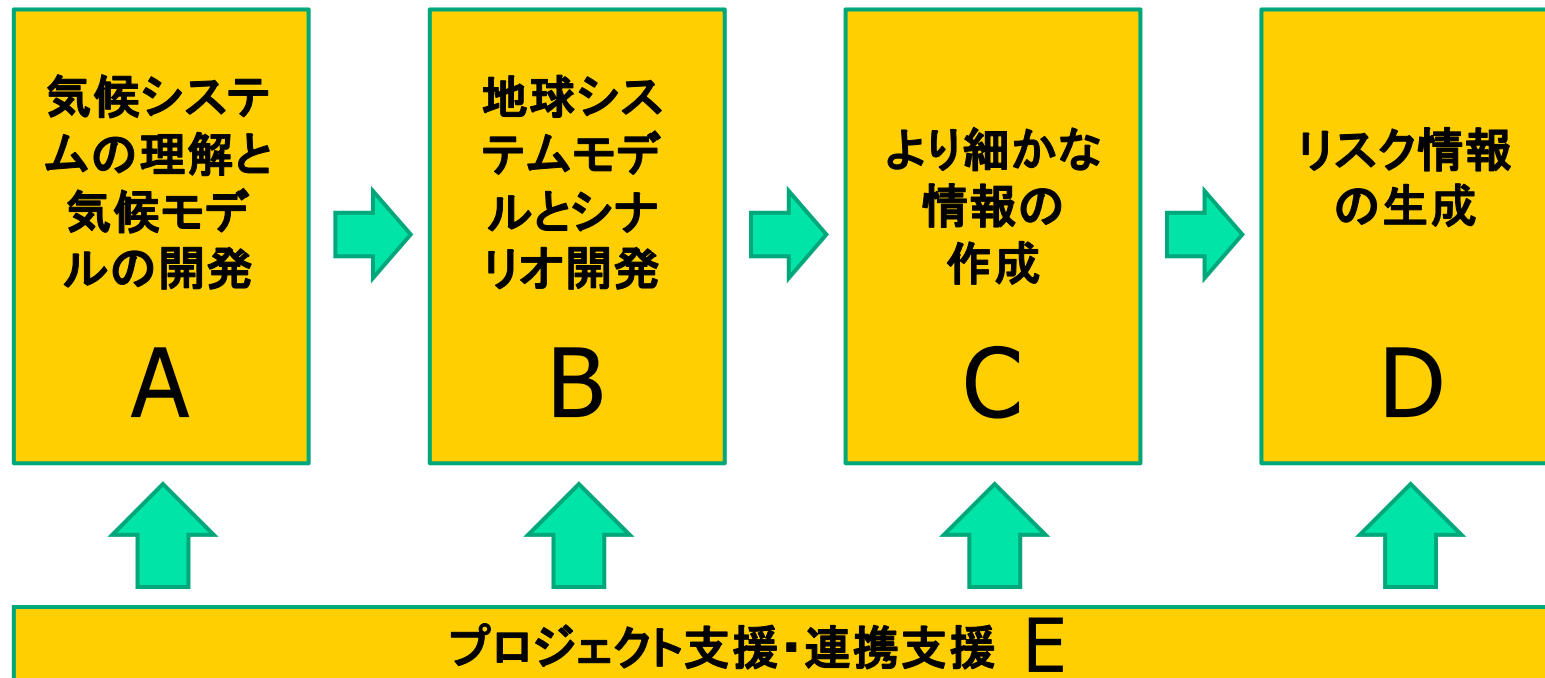


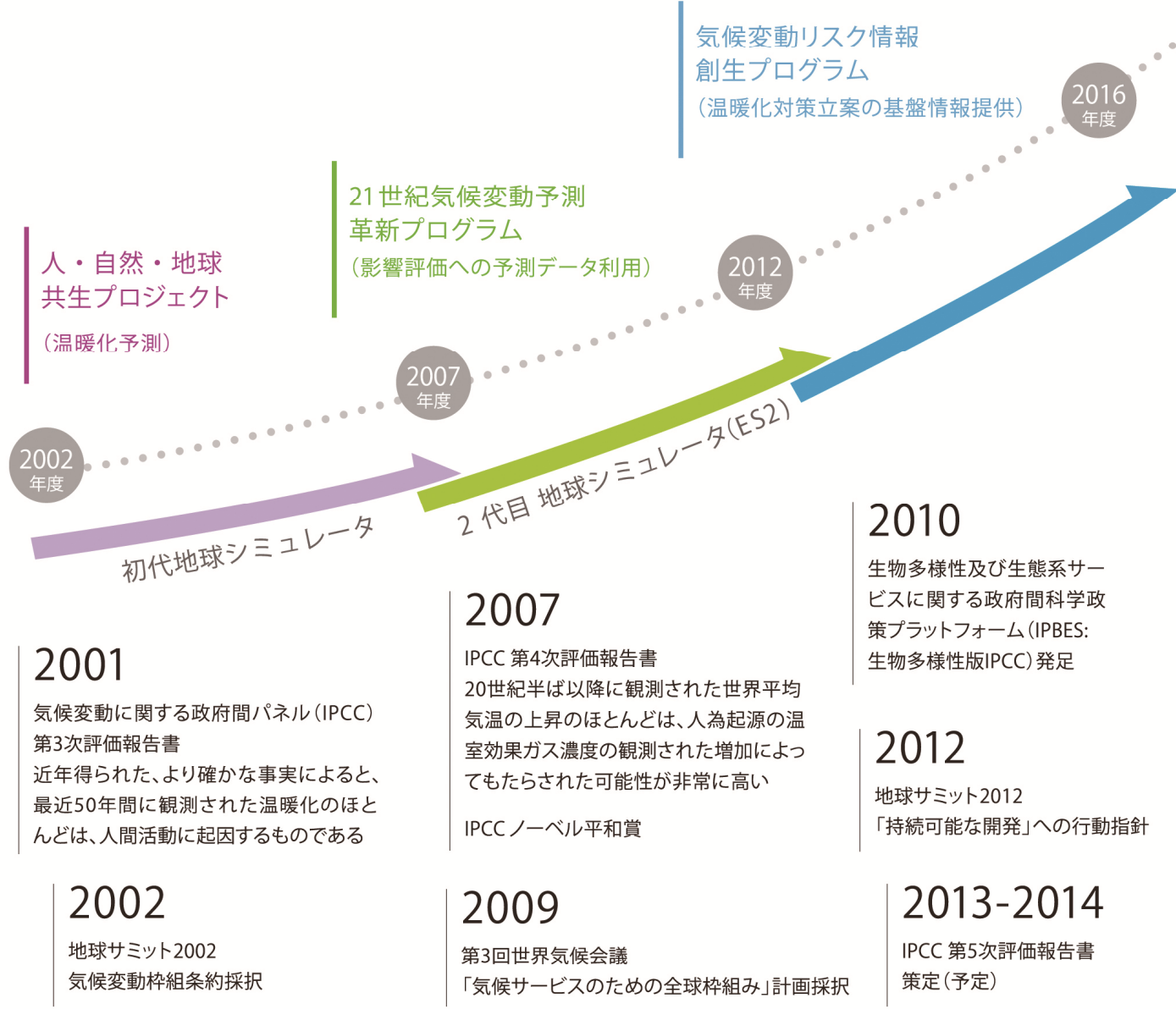
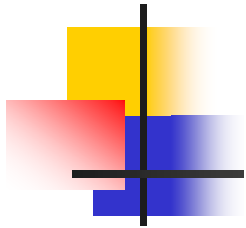
地球温暖化のリスクとは？

- **人間社会**に不都合な状態、あるいは、それを引き起こすこと
- **ハザード、暴露、脆弱性**で決まる
 - ハザードとは、リスクを引き起こす可能性のある気象・気候現象
 - 暴露とは、人間社会と関係があるか？
 - 脆弱性とは、「備えあれば憂いなし」

プロジェクト構造

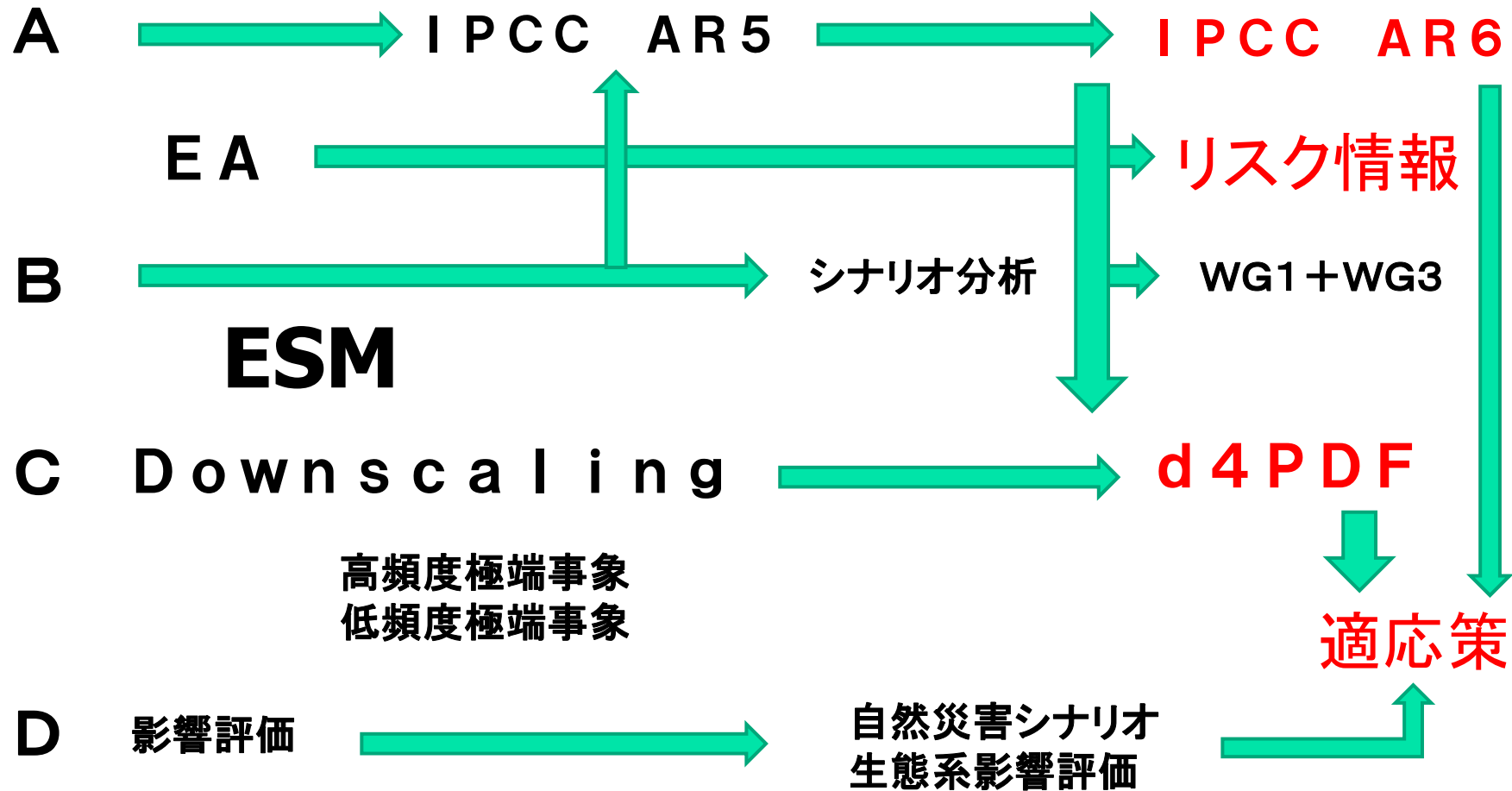
- AからDまで一貫したプログラム構造
- 連携支援の構造
- 社会的な課題に答える
- 公募課題を組み込む





創生 全体の流れ

出口
創生Nextへ





まとめ

- A: IPCC AR5, AR6への貢献
継続的なモデル開発
イベント アトリビューション(EA)によるリスク情報の提供
- B: ESMの開発によるIPCC AR5, AR6への貢献
WG1 + WG3 協同したシナリオ研究



まとめ(2)

- C: Downscaling手法の開発
統計的な手法の研究(リスク情報の
学問的基礎)
- D: 自然災害影響評価
被害最大化シナリオ
生態系影響評価



まとめ(3)

- 統合的な試み
- C/D連携 Downscaling + 災害被害推定
(リスク情報の創出)
- A/C/D リスク情報創出のためのデータ
セット(5400年分の計算結果) 今後のリスク
情報創出のために欠かせないデータ
d4PDF
- A/B IPCCに向けた継続的なモデル開発